

1

農業文化園
戸田川緑地



戸田川緑地は、港区と中川区を流れる戸田川の両岸に南北2.5kmにわたり広がる名古屋市南西部で最大規模の公園です。農業文化園は戸田川緑地の敷地内にあり、農業の大切さと花を愛する心をはぐくむ市民憩いの施設として親しまれています。

2

お ぐわ
御鋤神社



西福田新田は寛永20年(1643年)に当時の愛知郡八田村の豪農、鬼頭景義によって開拓されましたがその後、低湿地のため不作が続きました。そのため福田川を開削し、戸田川を改修するなどの難工事に取り組み、その工事の安全と豊作を祈願して御鋤様を祀ったものです。

3

いちご畑



大きいビニールハウスが目印の、名古屋市内で唯一いちご狩りが楽しめる観光農園です。平成22年(2010年)にオープンし、毎年12月中旬～5月中旬までがシーズンとなっています。※シーズン中のいちご狩りは完全予約制(詳しくはホームページなどでご確認ください)

4

戸田川緑道



戸田川沿いに整備されたおよそ1kmの遊歩道で、地元の方の散歩コースとして親しまれています。ソメイヨシノ、カワツザクラやサルスベリなど、時期によってさまざまな美しい景色が楽しめます♪【休憩スポットあります】

5

南陽神社



大正12年(1923年)より、日清戦争以来の戦死・病死者が祀られています。靖国神社より分霊を勧請し、当時は南陽忠魂社と称しました。昭和30年(1955年)に現社名に変更され、境内には、伊勢湾台風殉難者の慰霊の碑があります。また、神社敷地内には、名古屋市認定地域建造物「鬼頭勘兵衛宅長屋門」が移築されています。

6

七反野地蔵堂



鬼頭景義が福田新田を開拓したとき、この地が庄内川と戸田川の中間にあたり、工事犠牲者の冥福と堤防が切れないようにとの願いから、干拓完成の寛永17年(1640年)に、ここに地藏堂を建立したといわれています。

7

七反野神明社



鬼頭景義により、福田新田の堤防が締め切られた直後に建てられたといわれています。祭神は国常立命。昭和19年(1944年)、空襲により全焼し、戦後に再建されました。

南陽さんぽマップ

S:スタート G:ゴール

ウォーキングコース

【戸田川緑道をめぐるコース】

→ [5.7km] (約85分)

【藤前干潟と田んぼアートをめぐるコース】

→ [4.6km] (約70分)

【お寺や神社を中心にめぐるコース】

→ [4.7km] (約70分)

【戸田川緑地満喫コース】

→ [3.1km] (約45分)

①～⑪ 散策ポイント

○ スタートポイント

○ ゴールポイント

○ 公共施設

○ 史跡寺社等

○ 商業施設等

○ お寺

○ 神社

○ 公園

○ 学校

※ただしウォーキングコースについて、状況により(工事中等)歩けない場合もあります。

11

ふじまゐ がた
藤前干潟
活動センター



南陽地域最南端に位置し、南に向かって広大に広がる藤前干潟と、そこでえさをとる野鳥たちの姿を見ることが出来ます。館内では、干潟に生息するカニや魚などを見ることが出来るほか、干潟に入っの体感学習や調査を行う際の拠点施設にもなります。

1

農業文化園 戸田川緑地拡大図

【戸田川緑地満喫コース】



※状況により(工事中等)歩けない場合があります。

産直野菜の販売所あり

8

田んぼアート会場



田んぼアートとは、葉の色の異なる古代米などを使って、広大な田んぼに絵を描く取り組みです。南陽地域は、平成23年(2011年)から名古屋市内で唯一田んぼアートの制作を行っている地域です。

9

アグリパーク南陽



平成14年(2002年)に創設され、名古屋市内で最大となる2ヘクタールの温室でトマトの栽培をしています。トマトの生産量は年間400～450トンです。広大な温室は訪れてみるとその大きさに圧倒されます。また、直売所も併設。採れたての新鮮なトマトや地場野菜を販売しています(11月～7月)

10

七里の渡灯台跡



庄内川、新川と日光川が合流して伊勢湾にそそぐこの地は、その昔、熱田から桑名へ向かう海上七里の渡船の航路にあたっていました。航行の安全を図るため灯台が立てられ、渡船夜泊の標識として毎夜点じられました。(干拓により現在の南陽地域が誕生)